

人文研紀要

第43号～第46号(2002年)

◆第43号—2002年(2002年9月発行 A5版315頁)

アカデミズムと民衆文化 —高等教育の大衆化を通して—	田野崎 昭夫
福祉ミックスとホームヘルパーの意識 —ホームヘルパー意識調査の分析—	鍋山 祥子
バイオテクノロジーと現代医学に関わる法と倫理 —ドイツにおける最近の動向の紹介と分析—	古田 裕清
フンボルトの人間観とユダヤ人解放	飯森 伸哉
ヤドヴァシエムにおける「諸国民の中の正義の人」	白根澤 正士
黒土に咲く薔薇の言葉 —ツェラーンとマンデリシュターム(1)—	関口 裕昭
ヨブの妻の場処 —ジョルジュ・ド・ラ・トゥールとフランスの文学者たちをめぐって—	下澤 和義
音楽と絵画のあいだ	小山田 義文
描出の増進	伊藤 秀一

◆第44号—2002年(2002年9月発行 A5版312頁)

翻訳学の歩みと意味の再発見	吉村 謙輔
謎の効用 —ジョン・ファウルズ「謎」を探偵する—	丹治 竜郎
「破壊的要素」という言葉の起源と意味	野呂 正
詩人 Robert Nichols と歌人 藤島孝平	岡地 嶺
小説のセンテンス(2) —馬原の文体—	山本 明
五代呉越国銭氏の文学成就	池澤 滋子
張樂平『三毛流浪記』 —三毛の徒弟時代—	材木谷 敦
明代モンゴルの諜報活動(一) —その担い手を中心に—	川越 泰博
明代遼東馬市檔案考	荷見 守義
ヴィクトリア朝の大衆演劇と笑い(その二) —トム・テイラー『仮釈放の男』(1863年)—	井出 弘之

◆第45号—2002年(2002年9月発行 A5版283頁)

啓蒙のプロムナード —その1・アンソン提督とふたつのフランス小説—	永見 文雄
わたしだけのことば わたしだけのむねのう 「私的言語」と「孤独な心的生」	中村 昇
カロリング朝フランク王国における自由をめぐる訴訟 —解放証書・法律書式・判決文書を手がかりとして—	森 義信
<i>CAPRICHOS DE LA FORTUNA, REPRESENTACION Y ANALISIS</i>	Hiroko KARIYA
Johannes, Apostel und Evangelist, im spatmittelalterlichen biblischen Schauspiel : Die dramatische Behandlung des zweiten Sohns der Mutter Gottes	Yumi DOHI
“MADE IN JAPAN” = CALIDAD	Oscar Javier MENDOZA GARCIA
クロックミテータとは何か	渡邊 浩司
幻視を体験する者 —エリザベート・フォン・シェーナウとヒルデガルト・フォン・ビンゲンの著作の写本挿絵から—	鈴木 桂子
『わがシッドの歌』とサン・ペドロ・デ・カルデニャ修道院(上)	福井 千春

◆第46号—2002年(2003年2月発行 A5版237頁)

特集「改革」の渦中にある大学—大学問題研究会報告	
戦後日本の大学問題の歴史と展望	堀尾 輝久
大学改革の中の「教員養成教育」 —選択の可能性—	金子 茂
大学でどう専門職を育てるか —社会教育専門職員養成の課題をめぐって—	島田 修一
大学教養教育の問題と国立大学の改革	光本 滋
国庫助成と私立大学の個性	平山 令二
「高大連携」の現状と課題 —高校生が大学の授業を受けることについて—	小宮山 弘樹
学問の自由 —大学の課題—	柴沼 真
大学における教育の問題	佐藤 修二
外国語教育について	上坪 正徳
大学教師にとっての授業 —4つの大学における実践に即して—	中野 光
現代の学生における青年期 —三つの風景から—	横湯 園子
大学に対する社会の要請と中央大学の取り組み —21世紀初頭の姿勢・戦略・方向性—	鈴木 康司
あとがき 研究会記録—大学問題研究会のあゆみ	